

JID

NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

1998

3・4

1997年「JID 賞」表彰式と 「'98 NEW YEAR'S PARTY」

本部・総務委員会委員長 秋山 修治

去る1月20日（火）午後5時より、JID 本部事務局のある東京・新宿パークタワー8階クラブスクエア及びグリーンズカフェにおいて、「'98 NEW YEAR'S PARTY」、1997年「JID 賞」表彰式、賛助会員インフォメーションブースを併せて開催しました。

まず、ここ数年、恒例となった関東事業支部・組織委員会による「賛助会員インフォメーションブース」は、本年は参加会社の関係もあり、「(株)岡村製作所・柏木工



賛助会員・インフォメーションブース (株)アイデック

「目 次」

- 1997 年「JID 賞」表彰式と
「'98 NEW YEAR'S PARTY」…………… 1
- 平成9年度／活路開拓ビジョン調査事業を終えて(1) …… 3
- 平成9年度／活路開拓ビジョン調査事業を終えて(2) …… 4
- 創立40周年シンボルマークとロゴのデザイン …… 4
- 「JAPAN TEX'98／テキスタイルとひかり」 …… 5
- シンポジウム「健康な住まいと素材」を開催 …… 6
- シンポジウム「健康な住まいと素材」を拝聴して …… 6
- 「日本デザイン事業協同組合」設立へ …… 7
- JID 会員ワーク集に参加しませんか? …… 7
- 情報デジタル化アンケート結果と今後 …… 8
- IFI/デザイン誌「FRAME」第2号を発行 …… 8
- 平成9年度第5回理事会報告 …… 9
- 平成9年度第1回臨時理事会報告 …… 12
- チャールズ・レニー・マッキントッシュ展 …… 13
- JID NEWS関東……14 ● JID NEWS関西 …… 18
- JID NEWS中部……16 ● JID NEWS九州 …… 20
- 新入会員の紹介 …… 22
- 会員の異動 …… 23

予 告

「第30回通常総会」「第5回関東事業支部総会」及び「総会懇親会」を以下のように予定しております。改めてご案内いたしますが、ぜひ、ご出席ください。

●日時／平成10年5月29日(金) 午後～夜

●場所／新宿パークタワー8F

セミナールーム、クラブスクエア

(本部事務局)

(株)・(株)アイデック」の3社の参加で行われました。前回までは10数社の参加であったため、1社あたりのコミュニケーション時間が物足りなかったのですが、本年は1社当たりの時間を十分に確保し、賛助会員、正会員共に密度の高い交流が行われました。

つぎに、「JID 賞」表彰式(クラブスクエア)は、森谷事務局長の司会進行のもとで、泉理事長の挨拶に始まり、長岡選考委員長による選考経過の報告、引き続き、「賞盾」の贈賞と初の「大賞」を受賞された(株)竹中工務店柏木浩一氏の挨拶、インテリアスペース部門の部門賞を受賞された(株)木谷デザイン事務所の松本浩作氏の挨拶と、それぞれスライドによる作品説明と苦心談などが披露されました。

午後7時からはグリーンズカフェに場を移し、多くの来賓と会員を迎えて、「'98 NEW YEAR'S PARTY」をスタート、関東事業支部交流委員会 安武満智子、土橋隆子会員の司会進行で始まりました。

泉理事長の挨拶は、本年、当協会が40周年を迎え、地に足の付いた組織を確立し、社会に貢献すると共に、組織基盤を磐石なものとする事が語られ、来賓代表の通商産業省生活産業局・會田雅人デザイン政策室々長からは、今後の社会で益々重要となるデザイン業務についての期待が述べられました。

乾杯は、賛助会員・アイデックの藤本専務の首頭により行われ、その後、参加者の活発な意見交換や歓談が続き、有意義な一時を過ごすことができました。

本年は、当協会40周年、数々の計画・イベントなどが予定される年、大きな期待が膨らむ年の始めの集まりでした。なお、全体の企画・運営は、例年のように関東事業支部・組織委員会／交流委員会と選考委員会の協力のもとで、本部・総務委員会が中心となって行いました。

記録写真

提供／「インテリアタイムス社」



パーティーは100名余の参加者で賑わった



賛助会員・インフォメーションブース (株)岡村製作所



賛助会員・インフォメーションブース 柏木工(株)



初の「JID 賞」大賞を受ける柏木浩一氏



「JID 賞」部門賞を受け、挨拶する松本浩作氏



パーティー会場では、新入会員の紹介も
星 富士子会員と佐藤健一会員

平成9年度/活路開拓ビジョン調査事業を終えて(1)

(全国中小企業団体中央会・助成事業)

本部・教育研究委員会担当理事 中川 千早

新緑の美しい季節となりました。皆様お元気でデザイン業務にご活躍のことと存じます。

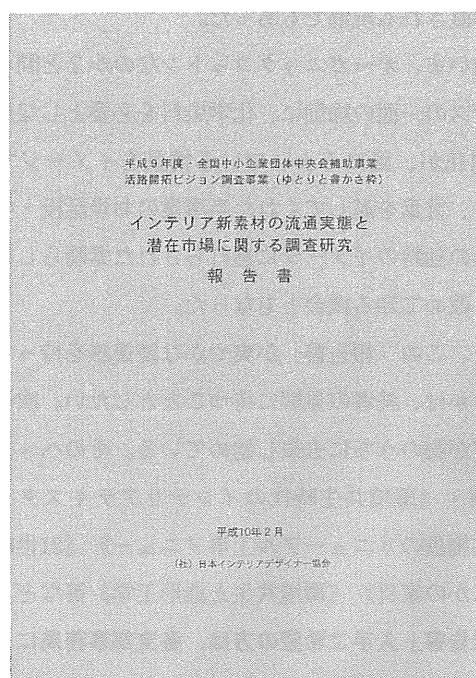
去る3月9日、中小企業団体中央会へ、平成9年度・活路開拓ビジョン調査事業「報告書」を、提出できたことをご報告申し上げます。

JID として初めてトライした事業でしたので、不慣れなことも多々ありましたが、専門委員の方々、賛助会員やJID 側委員の皆様に助けられ、このたびの提出に至りました。会員の皆様には「アンケート調査」にご協力頂き、回収率も高く、大変感謝しています。

この「報告書」が、少しでも会員の皆様のそれぞれの仕事場で生かされますよう心から願っています。

「報告書」は、JID 各支部事務局に用意してありますので、ご希望の方はご面倒でもお立寄りの上、入手して頂ければ幸いです。

また、部数に限りがありますので、アンケート調査にご協力頂きました方々を、優先させて頂きます。何卒ご了承ください。



完成した「報告書」/ A4・130頁

平成9年度/活路開拓ビジョン調査事業を終えて(2)

(全国中小企業団体中央会・助成事業)

業界側委員/JID 会員 平井 美蔓

その昔、〈保存・再利用〉に大きく関わる仕事に参加した頃、ある雑誌の書評で、重要文化財の優れた復元工事記録の存在を知り、多くの示唆を受けた。それは大変面白い読物であったのだが、何よりも担当者の工事への熱意が伝わる爽やかな記録であった。当事業の担当委員として参加したとき、私にはその工事記録の爽やかさがよみがえり、やがては出来上がる「報告書」の読後感に思いをはせたのであった。

当プロジェクトは、外部からご協力頂いた専門委員諸氏に恵まれた。エコデザインに関してのオピニオンリーダー的存在・益田文和氏の環境に対する優しさの視座。住環境での「健康」の意味を設計の立場から問い直す高橋 元氏の実戦哲学的知識。内装材に大きく関わる繊維素材のオーソリティ・中村邦雄氏の教育現場からの誠実な情報。そして、流通サイエンス研究所・鈴木 豊氏のインテリアデザイナーが持つべき職能への鋭い問いかけ。これら専門委員諸氏と共にした委員会は、私自身のひとつの現場であり、21世紀へとつながる環境共生時代の流れに、今日の仕事を通じてどのように関わっているのかを問い直される現場でもあった。

何故いま、オーガニックコットンなのか？と問う私にテキサスの一面の綿畑に、化学染料を必要としない薄緑色の綿花が、風にそよいでいる情景をイメージできない？と、言葉を返してくれた当事業のお世話役・中川千早さんの独特のイメージに裏打ちされた素晴らしい行動力を、改めて知る機会ともなった。

さて、この「報告書」が爽やかな読後感を持っているかどうかは、読者の見解に待つこととしたい。次へのステップが胸のうちに去来し始めている。そのヘッドラインの例・《環境共生時代のインテリアテキスタイル》《公共施設のリニューアル工事メニュー》《21世紀住環境のなかの家具》《環境共生と造形工学》など。

●「報告書」入手ご希望の方は、各支部事務局にご連絡ください。「送料着払い」にてお届けいたします。

JID 創立40周年シンボルマークと ロゴのデザイン

40周年記念事業実行委員会広報担当 吉良 ヒロノブ

1998年11月24日に JID は創立40周年を迎え、そしてまもなく、20世紀から21世紀に向かう年となります。

今回のメインテーマ(案)については、20数案ありましたが、その中で、会員同士、会員と協会、会員と社会、さらに、世紀末から次世紀を「つなぐ」という意味合いから、実行委員会において「つなぐ」を満場一致で決定しました。

一方、「40周年のシンボルマーク」は、40年の歴史、道の流れのように表現し、4は未来に向かう、0は地球で、4と0で地球に優しいデザインをイメージしています。さらに、使い方によっては「JID」を付加する場合もあり、それを併せたものも制作しました。

このようなデザインコンセプトを基に、デザインは「BOSH」などでお世話になった涌井清一氏に依頼し、デザインして頂きました。今後はこの3つのデザインを、ポスターやリーフレットなど、一定のマニュアルに従って使い分けをしていく予定です。

涌井清一氏プロフィール

1950年 栃木県生まれ

1971年 代々木デザイナー学院卒業

1976年 (株)国建デザイン入社

1977年 デザインオフィス

「be-one」設立

マーク、ロゴタイプを中心としたデザイン活動を主とし、現在に至る

1990年～1994年 関東事業支部情報誌「BOSH」編集



通産省・デザイン政策室 室長交替及び事務室移転

去る4月1日付でデザイン政策室・室長の交替がありました。

新 小島 幸治(こじま こうじ)

旧 會田 雅人(あいだ まさと)

また、新事務室は通産省庁舎・本館9F西4に移転しました。

Tel 03-3501-1863 Fax 03-3501-6782

(本部事務局)



JID 創立40周年／シンボルマークとロゴ

受託事業「JAPAN TEX '98」の 「テキスタイルとひかり」提案展示

ワーキンググループ 中島 龍興

ヘルシンキの郊外に、ミュールマキという20年以上も前に建設された教会がある。内部は白色で統一されており、ややもすると、平坦で全く興味を失うような空間である。しかし、それを設計した建築家は、光によってパステル調の色彩が表現されるタペストリーを駆使することで、見事にこの教会の品格を高めた。

ところで、去る1月28日から4日間、東京ビックサイトにて、(株)日本インテリアファブリックス協会主催の「JAPAN TEX '98」が開催され、西館・アトリウムにおける提案展示／「テキスタイルとひかり」（JID 受託事業）にワーキングメンバーとして加わった。

この提案展示は、光によってテキスタイルがどのように変化して見えるかといった体験と教育的効果を高めることを主目的としたものであった。テキスタイルを透過したり、反射する効果は、テキスタイルの色や材質、織り方とランプの光質や明るさ、照射角度によって大きく変わる。このような変化は、ある意味で興味深く、不思議である。実際には、見学者のどの位の人に関心を持って貰えたかはわからないが、少しでもその意味が理解されたとすれば、私たち担当者（川上玲子、村口峯子、本

澤和雄と私＝JID会員）としては一定の成果があったと思っている。

というのも、この展示は企画段階で、1回で完結するにはテーマが大き過ぎるので、3回位継続することを前提に考えてほしいとの話でスタートしたからである。

現在、空間設計において、照明とほかのインテリアエレメント（特にファブリック）との関係はそれほど密接ではない状況にあると思



受託事業「JAPAN TEX '98」の「テキスタイルとひかり」提案展示

われる。照明が器具デザインではなく、光のデザインにウェイトが置かれ、前述の「ミュールマキ教会」のように光と一体を考えていかねば、空間は美しく、そして快適にはならないのである。

JID シンポジウム 「健康な住まいと素材」を開催

本部・教育研究委員会副委員長 藤川 征輝

去る2月25日、社会的なテーマである「健康な住まいと素材」によるシンポジウムを開催いたしました。また、会場は賛助会員のヤマギワ(株)のご好意により、東京・ヤマギワ五番町ビル地下2階大会議室を借用させていただきました。

当日は、あいにく冷たい雨が降る中でしたが、80人近い参加者があり、いかに「健康な住まいと素材」に関して皆様の関心が高いかを改めて感じました。

パネラーには、北里大学医学部長・石川 哲氏、建築家・天野 彰氏、それに JID の竹岡美智子会員を加え、村口峯子教育研究委員長のコーディネートで進行了しました。まず3人のパネラーが、テーマに添ってそれぞれ述べた後、ディスカッション、質疑応答などがあり、実りのあるシンポジウムとなりました。

各パネラーの方々からは、化学物質と健康との係わり、

室内の換気の問題や健康な住まいと環境などについて、興味深い具体的なことを聞くことができました。

シンポジウム終了後、本部・交流委員と関東事業支部教育研究委員の方々の協力で、なごやかな「懇親会」が行われ9時過ぎ散会しました。

ご多忙中、快くパネラーを引受けてくださいました3氏をはじめ、今回のシンポジウムにご協力頂きましたヤマギワ(株)と、JID 会員の皆様に心よりお礼を申し上げます。

JID シンポジウム 「健康な住まいと素材」を拝聴して

賛助会員(株)松屋 専務取締役 伴 総一郎

室内環境が様々な形で報道される今日、この度のシンポジウムを拝聴でき大変勉強になりました。

しかし、一方では、健康住宅研究会内装材等分科会が、昨年来行っている実大室実験の結果も出ており、様々な情報を基に「健康な住まい」について、さらに論議がなされてもよかったのではないかと思います。

日本インテリアデザイナー協会会員の皆様が「健康な住まい」について、どのように考えていらっしゃるのか、そして、そのためにどのような「素材」をお求めになっているのかが、賛助会員の1メーカとして非常に注目しているところ

です。

デザイン、機能性、施工性、価格等、様々な点を考慮しておりますが、今後必要な「素材」とは何か、会員の皆様のご意見を聞かせて頂ける場を設けて頂きたいと思っております。



JID シンポジウム「健康な住まいと素材」、中央はパネラー・石川 哲氏

「日本デザイン事業共同組合」(仮称) の設立について

日本デザイン事業協同組合設立準備会委員
JID 会員 長堀 映司

デザイン事業者が集まって、自らの手で経営環境を整備する目的でスタートした「日本デザイン事業協同組合」(仮称)は、設立準備会メンバー(座長・金子修也)による準備作業をほぼ終了、去る2月20日(金)東京・赤坂プリンスホテルにおいて「設立説明会」を開催いたしました。

当日は、懇親会を含め有料の説明会にも拘わらず、様々なデザイン分野から101名の方が参加され、金子座長をはじめ設立準備会委員が、協同組合の①設立趣旨 ②名称 ③組員資格 ④事業内容 ⑤出資金と賦課金 ⑥運営 ⑦設立までのプロセス、等の説明を行い、「設立発起人」になって頂けるよう広く参加を呼びかけました。

今後は、設立発起人の人数が集まった時点で、「発起人会」を設立して具体的な作業を終了し、平成10年6月末に「設立総会」を開催出来るように準備を進めています。

個々の事業者では実行が難しい問題を、多数の事業者が集まることによって、種々のメリットの恩恵や事業上の諸問題の解決に役立ち、社会の期待に応えられる団体として、その基盤を確立したいと願っています。

現在、デザイン事業者の分野として①空間デザイン(インテリア・建築・ディスプレイ)②商品デザイン(インダストリアル・クラフト・ジュウリー・パッケージ・コスチューム)③コミュニケーションデザイン(グラフィック・サイン)などを考えていますが、JIDの会員、または知人で協同組合に興味のある方は事務局(日本産業デザイン振興会・人材開発センター内

☎03-3435-5636)に資料請求をしてください。

「設立までのプロセス」

- 1) 2月20日の説明会の意見を踏まえて「設立発起人会」を発足させる。
- 2) 「設立発起人会」は協同組合の組織、定款、規約、事業計画などを起案する。
- 3) 「設立発起人会」から各デザイン事業所に参加を呼びかける。

- 4) 平成10年6月頃に「設立総会」を開催の予定。
- 5) 設立同意者を確定し、監督官庁(通商産業省サービス産業課)へ認可手続きをする。
- 6) 認可後、法人登記を行い組合は正式に発足する。
(平成10年6月頃を目標)

JID 会員ワーク集 「インテリアデザイナーの仕事」 あなたも参加しませんか?

本部・事業委員会委員長 木村 戦太郎

満開の桜の下に杯を交わし、桜吹雪に心舞い踊ったと思う間もなく、今輝きを強める陽射しの下で、様々な木々の新緑が目心地好い初夏の気配を伝え始めています。

不況の暗さを、ひととき忘れさせてくれる日本の四季の素晴らしさに、幸せを感じる今日この頃ですが、新しい年度を迎え、皆様いかがお過ごしでしょうか。

わが国の経済は出口の見えない状況が続き、不安が募りますが、徒に落込んでいても事態は好転しません。元気を出して、今、出来る努力を続けるべきであり、未来に対する「投資」と「布石」が必要だと思われます。

ところで情報社会といわれる昨今ですが、継続して情報発信できる公的な情報メディアは見当たりません。

この会員ワーク集「インテリアデザイナーの仕事」は、会員同士、会員と賛助会員との情報交流や啓発を意図し、また、関係諸団体や図書館、デザイン系学校などへの情報発信の拡大が図れるよう企画されています。

会員ワーク集は、今後、偶数年に継続発行を予定しておりますが、そのための仕掛けとして、継続参加のしやすさ、広く頒布するための売り易さを優先して、印刷も墨一色として掲載料・販売価格を低く設定しています。

オールカラーを望む向きも多いようですが、掲載料・販売価格が倍化した場合の参加数と販売量の減少による情報メディアとしてのパワー低下をお考えください。出来るだけ多くの情報を継続発信することが重要であり、インデックスであり、コンセプトを伝えるメディアと考えればモノクロでも不足はない筈です。

JID も加わって現在『Japan Design』の個人ホームページ開設の検討が行われています。このデジタル情

報は、常に会員の今を発信し続けますが、信用は実績によらなければ得られません。今後は、「デジタル情報」「アナログ情報」の両方と、バランスよく付合っていくべきだと思います。

会員ワーク集への参加は、そのときの時間軸であなたをデザイン界・業界に位置付け、実績を公知の情報に変換します。どうか、今すぐ申込みのペンを取って頂きたいと思います。申込締切日を過ぎていますが、まだ、間に合います。

情報デジタル化アンケート結果と今後

本部・総務委員会委員（デジタル研究会担当）
鳥井 貴正

去る2月下旬に実施した「情報デジタル化についてのアンケート」は、123名の回答を頂くことが出来ました。発送した692名の会員数に対して123名、17.8%の回答率で「会員全体の総意」とはいえないまでも、皆様のご意向は、かなり掴めたのではないかと考えています。ご協力ありがとうございました。

つぎに、回答内容については、「現在パソコンを使っている」方が95名、或いは「興味がある」とお答えの方が24名とご回答頂いた方の内、約77%の方がパソコンユーザーであり、興味を持たれている方を含めると、97%の方が、関心を持って答えてくださったことがわかりました。

また、インターネット『Japan Desin』に関する設問では、34人の方が「参加したい」64人の方が「参加費用による」と答えており、「ホームページ開設サービス」に対する費用の面では、2万円未満とお考えの方が43人と最も多く、ついで2～3万円とお答えの方が33人、3～4万円が3人という結果でした。中には「自分で開設すれば無料」とのご意見もありましたので、『Japan Desin』からの[リンクを許可する基準の設定](#)などの検討も必要であると感じました。

そのほか、「流行にとらわれることなく慎重な対応を」「JID と会員のメリットを考えて」などのご意見も数多く頂戴しました。ぜひ、参考にさせて頂きたいと思います。

「デジタル研究会」では、今後これらのご意見を基に

「ホームページ開設サービス」の早期立ち上げと、パソコン入門講座」など、各種勉強会の企画を検討していきたいと考えています。今後とも皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

IFI / インテリアデザイン誌 「FRAME」第2号を発行

JID NEWS '97～'98年12・1月号で、IFI/インテリアデザイン誌「FRAME」の創刊号の発行についてお知らせいたしましたが、このほど1998年度3／4月号（通巻第2号）が手元に届きました。

前回と同様に、見本誌を JID 各支部事務局に保管いたしますので、ご覧になりたい方、または、購読されたい方は、JID 各支部事務局にお問い合わせください。

年間6冊の購読代金は、通常\$87ですが、JID 会員（IFI 加盟団体）は、特価\$75で求めることができます。さらに、試読購読の場合は、申込時より4冊で\$65とのことです。

以下は、1998年度発行予定と特集内容です。

5／6月号 オーストラリア 伸縮座席類

7／8月号 ベルギー 内装仕上げ材

9／10月号 イギリス ライティングとサイン

11／12月号 日本 衛生設備と暖房設備

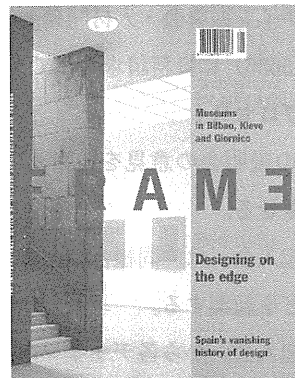
1／2月号 スイス インテリア・ファブリックス

●同誌に関する詳しいことをお知りになりたい方は、

本部・国際委員会 山田 隆二 会員

（☎045-681-3409）にお問い合わせください。

（本部事務局）



平成9年度・第5回理事会報告

①会議名：平成9年度・第5回理事会

②日 時：平成10年1月20日(火) 13:30～17:00

③場 所：リビングデザインセンター

OZONE 8F セミナールーム(B)

東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー 8F

④出席者：理事総数15名中(本人出席13名)

(理事長) 泉 修二

(副理事長) 中川帛子、山口道夫

(理 事) 浅野盛治、今崎 務、岩倉榮利、

栢原秀榮、吉良ヒロノブ、

関 里繪子、中川千年、長岡貞夫、

福田友美、森谷延周(事務局長)

(委任状) 中川千早：夏原晃子

(監 事) 川上信二：金子誠之助(欠席)

オブザーバー(次期役員)

木村戦太郎、小宮容一、阪井良種、

山本棟子

⑤議 題

I. 議 案

第1号議案 後援・協賛名義承認の件

第2号議案 会員入退会承認の件

第3号議案 議事録署名人選任の件

第4号議案 理事兼事務局長の件

II. 報告事項

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

(2) 平成9年度収支状況報告(11月末日現在)

(3) 平成8年度～平成9年度入退会状況

(4) 副理事長、担当理事、委員長人事について

(5) 新年度の事業計画・収支予算の基本方針について

(6) 公益法人の設立許可及び指導監督基準の改正に伴う検討及び調査、提出について(期限2月10日)

(7) その他

⑥ 議 事

森谷事務局長より「理事総数15名中、本人出席13名、委任状2名で本理事会は成立した」旨報告。泉理事長体調不良のため、中川副理事長が議長となり議事に入った。

I. 議 案

第1号議案 後援・協賛名義承認の件

事務局長が下記2件について説明した。

議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

◎「第8回インターナショナル・フランクフルターメッセ・アジア」 後援・新

1998年6月24日(水)～6月26日(金)

主催 メッセ・フランクフルト(株)

◎「喜多俊之のデザイン展」 後援・新

1998年1月15日(木)～2月8日(日)

主催 アジア太平洋トレードセンター(株)

第2号議案 会員入退会承認の件

事務局長が下記18件について説明した。

議長は承認を諮り、異議なく承認された。

入会 正会員(3件)

氏 名	支部	保 証 推 薦 人
今 井 知 子	関東	高石 芳子・森谷 延周
安 田 恵	関東	長堀 映司・下島 資子
佐 藤 健 一	関東	阪井 良種・吉良ヒロノブ

退会 正会員(14件)

氏 名	支部	
宮 武 光 一	関西	定款8条第2項(4)による
大久保 道 治	関東	
大 溝 浩	関東	
清 水 正 義	関東	
田 中 典 夫	関東	
田 中 政 明	関東	
谷 本 邦 彦	関東	
野 田 通 隆	関東	
萩 田 裕 二	関東	
早 川 忠 男	関東	
南 昭 子	中部	
中 村 道 孝	中部	
美 和 昇	関西	
山 口 勝 己	関西	

退会 賛助会員(1件)

氏 名	支部	
(株)デンタルインテリアメイ	関東	定款8条第2項(4)による

第3号議案 議事録署名人選任の件（2名）

議長は、浅野盛治、今崎 務、両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

第4号議案 理事兼事務局長の件

II 報告事項

各事業支部及び本部各委員会については各担当理事、(4)(5)については泉理事長、(2)(3)(7)については事務局長が、資料を基に報告した。

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

●関東事業支部（吉良）

去る11月25日、支部代議員会（出席28名）を開催、次期支部長に山下博之会員を選出したこと及び、12月2日の委員長会議において、次期支部長より新委員長構成、今期のまとめ及び次期事業計画など、円滑化の要請を行った旨報告。

●中部事業支部（関）

国際デザインセンター1周年記念「用と美・フィンランドデザイン展」（11月7日）、インテリアプランナー協会との合同納会（12月13日）など、関係団体との事業併催が増えている傾向を中心に報告。

●関西事業支部（夏原）

夏原担当理事委任出席のため、栢原理事及び小宮新理事予定者が代理報告。インテリアを学ぶ学生を対象に、「インテリアの現場」と題して、支部会員のスタジオなどを開放してコミュニケーションを深める計画（1月17日～4月20日計7回／組織委）及びATC内に開設の「店づくり振興スクエア」を中心に報告。

●九州事業支部（中川千年）

去る12月9日、FUKUOKA デザインリーグの結果を受けて、「無料デザイン相談会」（ホテル・イルパラッツォ）を開催。福岡在住の様々なジャンルのデザイナー（JIDからは4名）がデザインに関する疑問や相談に応じたこと及び、役員選挙の実施状況について報告。なお、40周年事業に関して、巡回展などの受入れの可能性についても触れた。

●選考委員会（長岡）

1997年「JID 賞」表彰式を本日開催の「1998年 NEW YEAR'S PARTY」に併催準備を整え

たこと及び、次期委員への引継ぎを中心とした委員会開催を準備中と報告。

●総務委員会（栢原）

本日開催予定の「1998年 NEW YEAR'S PARTY」の概要を報告。なお、吉良理事より（財）日本産業デザイン振興会推進のホームページ「ジャパンデザイン」に関して、今後の取り組みの参考のため、近々「アンケート」実施予定と補足した。

●組織委員会（中川帛子）

入会希望者自ら推薦人を立てられない場合の「代理推薦人制度」（仮称）といったルールを検討中であること及び、来る2月20日「デザイン事業共同組合」設立説明会開催予定（主催・同組合設立準備会／座長／金子修也）、本年6月頃に設立総会、本年夏頃に法人認可を予定している旨報告。

●国際委員会（浅野）

IFI NEWS の抜粋和訳を次回 JID NEWS 掲載準備中と報告。なお、中川帛子理事より、IFI /インテリアデザイン誌「FRAME」創刊号の入手と同誌の閲覧・購読の各支部事務局対応及び、次回 APSDA 総会は今秋の9月開催（マレーシア）予定と報告。

●交流委員会（岩倉）

シンポジウム「健康な住まいと素材」（本・支部教育研究委員会主催）に併せた懇親会開催を準備中と報告。（なお、この件は本部・教育研究委員会事業報告推進状況と併せた報告とした）

●広報委員会（山口）

賛助会員に対するアンケート草案を作成、今後は本部・組織委員会とリンクした動きを考えたいこと及び、40周年事業に関する広報をタイムリーに進めるため、担当委員会より早めの情報提供を得たいと報告。なお、吉良理事より40周年のメインテーマ「つなぐ」及びシンボルマークデザイン（デザイン 涌井清一）について説明があった。さらに、泉実行委員長より、今後は各支部との連携を深めていきたいと述べた。

●事業委員会（福田）

去る11月27日開催の（財）国際家具産業振興会「創立40周年特別ビジネスセミナー」の内、JID が関

与した記念講演（95名参加）、パネルディスカッション（133名参加）は成功裡に終了した。また、JAPANTEX '98 企画展示「テキスタイルとひかり」、会員ワーク集の企画・編集、インテリアコーディネートブックの編集・執筆も順次具体化の方向で進行中と報告。なお、木村新理事予定者より会員ワーク集の DM（案）及び、各事業の事業収支について補足した。

●教育・研究委員会（中川千早）

中川千早担当理事委任出席のため、本部・交流委員会に併せて報告。

●デザイン保護委員会（今崎）

前回理事会（11月12日）で保留となった会員間の著作権侵害問題に関して、委員会討議の結果、会員の資質に関するものであり、当委員会では扱ふべき内容でないこと、扱ふとすれば別機関をつくり検討することがよいと報告。なお、一部の理事より、会員、非会員の両方から、ひろい意味でのデザイン保護について取り組むことが委員会としては妥当ではないかとの意見があった。

●活路開拓ビジョン調査事業（中川千早）

中川千早理事委任出席のため事務局長が代理報告。昨秋実施のアンケート調査結果やヒアリング調査を基に「報告書」のまとめ方について検討中であること及び、12月31日現在の収支中間報告を行った。なお、前回理事会（11月12日）で指摘があった同・委員会の位置付けの再検討については、中川千早理事欠席のため次回送りとした。

(2) 平成9年度収支状況報告（11月末日現在）

4月1日～11月末日現在の収支状況を資料に基づいて報告。全予算に対して収入31.6%、支出46.5%で14.9%の支出オーバーとなっている。なお、JIDフォーラム開催に関する一連の経費は、予備費支出として取り扱うこととした。

(3) 平成8年度～平成9年度入退会状況

資料に基づいて平成8年度（第1回～第6回理事会承認）及び平成9年度（第1回～第5回理事会承認）の会員入退会状況を説明。平成9年度に関して、現時点では入退会共、当初の予測数をかなり下回り、特に入会確保の努力が必要と報告。

(4) 次期・副理事長、担当理事、委員長人事について

予め届けられた資料に基づいて、泉理事長より副理事長の構成を次期1期に限って3名としたい旨提案説明があった。理事会は副理事長の役割と3名の必要性、定款との関わり、40周年記念事業との関わりなどを中心に討議した結果、見送ることとした。また、副理事長人事については次期理事長一任を受けて、中川帛子、夏原晃子両理事を副理事長とすることに内定した。

（次期通常総会承認を経て就任）さらに、担当理事については意向聴取に留めた。

(5) 新年度の事業計画・収支予算の基本方針について

泉理事長より口頭により、様々な削減策を踏まえて、次期予算編成にあたっては、支部事業補助費、及び本部各委員会費について、一定の配慮を加えたいと述べるに留めた。

(6) その他

- ・通産省業務監査 平成10年2月10日(火)実施予定
- ・'98 NEW YEAR'S PARTY について
- ・JID NEWS 3・4月号4月30日(木)発行予定
- ・次回理事会開催予定（'97第6回）

平成10年3月24日(火)

議長は報告事項について了承を求め、理事会はこれを了承した。

●臨時理事会の開催について

予定された第4号議案 理事兼事務局長の件及び、報告事項(4)担当理事・委員長人事について、(5)新年度の事業計画・収支予算の基本方針について、(6)公益法人の設立許可及び指導監督基準の改正に伴う検討及び調査・提出については、時間不足から審議未了となった。議長はこれらの継続審議のため、来る2月13日の臨時理事会開催を理事会に諮った。理事会は満場一致により承認した。

〔平成9年度・第1回臨時理事会報告〕

①会議名：平成9年度・第1回臨時理事会

②日時：平成10年2月13日(金) 13:30～17:00

③場所：リビングデザインセンター

OZONE 8F セミナールーム(B)

東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー 8F

④出席者：理事総数15名中(本人出席13名)

(理事長) 泉 修二

(副理事長) 中川帛子、山口道夫

(理事) 浅野盛治、今崎 務、岩倉榮利、
栢原秀榮、吉良ヒロノブ、中川千年、
中川千早、夏原晃子、福田友美、
森谷延周(事務局長)

(委任状) 関 里繪子、長岡貞夫

(監事) 川上信二：金子誠之助(欠席)

オブザーバー(次期役員)

木村戦太郎、小宮容一、阪井良種、
山本棟子

⑤議題

I. 議案

第1号議案 議事録署名人選任の件

第2号議案 理事兼事務局長の件

II. 報告事項

- (1) 「活路開拓ビジョン調査事業」の担当部署について(継続)
- (2) 通産省業務監査(中間報告)
- (3) 公益法人の設立許可及び指導監督基準の一部改正について
- (4) 担当理事、委員長人事について
- (5) 新年度の事業計画・収支予算の基本方針について
- (6) その他

⑥議事

森谷事務局長より当初予定に従って、今回も引き続き次期役員予定者のオブザーバー出席を依頼した旨報告。続いて事務局長より「理事総数15名中、本人出席12名、委任状2名で本理事会は成立した」旨報告。泉理事長が議長となり議事に入った。

I. 議案

第1号議案 議事録署名人選任の件(2名)

議長は夏原晃子、岩倉榮利、両理事の承認を諮り、異

議なく承認された。

第2号議案 理事兼事務局長の件

第5回理事会(平成10年1月20日)において審議未了となった同件について、栢原総務担当理事からの審議願に基づき審議した。なお、途中で第3回理事会(平成9年9月13日)の同件審議議事録(8項目)の再確認を行った。席上、再度様々な意見が出されたが、議長より本日採決により一定の結論を出すか、または、新年度に予定される定款改訂の作業の中でさらに検討を加えるかとなり、採決の結果、理事長への委任状が2通あり6対8により後者となった。(山口理事未到着のため14人により採決)

II 報告事項

報告事項の内、(1)を中川千早理事、(4)(5)を泉理事長、それ以外を事務局長が、資料を基に報告した。

(1) 「活路開拓ビジョン調査事業」の担当部署について(継続)

担当の中川千早理事より、これまでの経緯、現在の進行状況を説明。再討議の結果、これまで通り本部・教育研究委員会の中に位置付けることとした。なお、来期実施の場合は特別委員会設置が望ましいとの意見があった。

(2) 通産省業務監査(中間報告)

去る2月10日、3年に一度の業務監査が実施されたことを資料に基づいて報告。

(出席/通産省事務官2名、金子・川上両監事、三宅会計事務所1名、事務局長及び局員1名)

当日の様子を川上監事が10項目に分けて報告。事務局長より、詳しい指摘内容に関しては、後日通産省より文書による通達ありと報告。

(3) 「公益法人の設立許可及び指導監督基準」の一部改正について

去る1月12日、通産省より標記についての検討及び改正に伴う調査依頼があった旨資料に基づいて報告。不明点の照会、回答を得ているものの、内容をさらに確かめた上、平成11年9月までに対応策の実施を図らねばならないとした。

(4) 担当理事、委員長人事について

第5回理事会(平成10年1月20日)において審議未了となった同件の内、担当理事については泉理事長が調整を諮り、一部の保留を除いて下記のように確定し

た。

総務担当理事：山口 道夫

組織担当理事：浅野 盛治

国際担当理事：中川 帛子

交流担当理事：岩倉 榮利

広報担当理事：吉良ヒロノブ

事業担当理事：木村戦太郎

教育研究担当理事：中川 千早

出版担当理事：山本 棟子

定款改訂担当理事：今崎 務

関東事業支部担当理事：阪井 良種

中部事業支部担当理事：関 里繪子

関西事業支部担当理事：（調整中）

九州事業支部担当理事：中川 千年

なお、委員長人事については、原則として各担当理事に一任することとした。さらに、支部長の選出については、下記のとおり確認した。

関東事業支部 山下 博之

中部事業支部 安藤 清

関西事業支部 （選出中）

九州事業支部 川崎 泰秀

(5) 新年度の事業計画・収支予算の基本方針について

第5回理事会（平成10年1月20日）において審議未了となった同件について、泉理事長より次期予算編成にあたっては、支部事業補助費の平成8年度同額復活としたい旨述べた。運営組織上はデザイン保護委員会を解消、総務委員会の中に吸収、一方、出版委員会を復活させたいとした。また次回理事会前に荒予算の提示を行い、次回理事会にて決定したいとした。

(6) その他

・次回理事会開催予定（'97第6回）

・平成10年3月24日（火）

・第30回通常総会、平成10年度第1回理事会開催予定
平成10年5月29日（金）

議長は報告事項について了承を求め、理事会はこれを了承した。

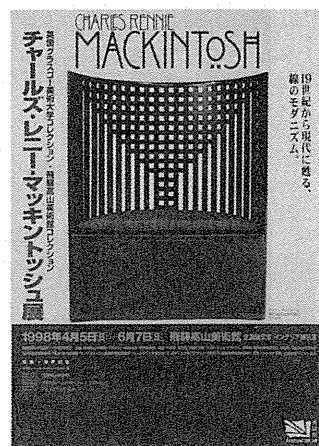
【チャールズ・レニー・マッキントッシュ展】

私たちのよく知るマッキントッシュ（1868～1928）は、19世紀末のイギリスで活躍した建築家、インテリアデザイナー、家具デザイナーです。そして、マッキントッシュのデザインは、モダンデザインから現代につながる機能主義デザインへの起点になる一方、直線と曲線を組み合わせたシンプルなデザインや明快な色彩感覚は、今でも多くの家具やインテリアデザインに影響を与え続けています。

そして、没後約70年の1966年、マッキントッシュの大規模な回顧展がイギリスのグラスゴーを皮切りに（入場者35万人）、翌年、この巡回展は、ニューヨークのメトロポリタン美術館、ロサンゼルス郡立美術館などで開催され、世界で100万人以上の入場者を数えました。

今回の日本の飛騨高山での開催は、家具などの収蔵で世界的に有名なグラスゴー美術大学マッキントッシュコレクションと飛騨高山美術館（開館1周年記念）が収蔵する作品群によって構成され、「ウィロー・ティールーム」の家具や代表作の1つである「芸術愛好家の家」のポートフォリオのほか、生涯にわたって制作した繊細な素描や水彩画約50点を中心として見ることができます。この機会にぜひ、ご覧ください。（事務局長／森谷延周）

- 名称／チャールズ・レニー・マッキントッシュ展
- 主催／飛騨高山美術館、グラスゴー美術大学、中日新聞社
- 会期／1998年4月5日～6月7日（無休）
- 会場／飛騨高山美術館企画展示室ほか
高山市上岡本町 1-124-1 ☎0577-35-3535
- 展示／家具、デザイン画、建築設計図、水彩画など約50点
- 入場料金／（マッキントッシュ展）大人1000円 高大 800円
（常設展と共通）大人1800円 高大1500円
- 交通／JR高山線高山駅よりバス、飛騨高山美術館前下車



JID シンポジウム 「健康な住まいと素材」に参加して

住まいの健康道場・事務局 大中 義夫

今回、JID 本部・教育研究委員会主催で開催されましたシンポジウム「健康な住まいと素材」に参加させて頂き、多くの方々の熱意に接することが出来、大変感謝いたしております。

シンポジウムは、パネラーとして「化学物質過敏症」の研究をされている北里大学・医学部長の石川 哲先生、健康で安全な住まいと癒される住まいづくりを提案し、実践されている建築家の天野 彰先生、人に優しい家づくりを実践されている建築家の竹岡美智子先生がご講演され、それぞれ、ご専門の立場から実例を交えながら熱のこもったお話をされました。

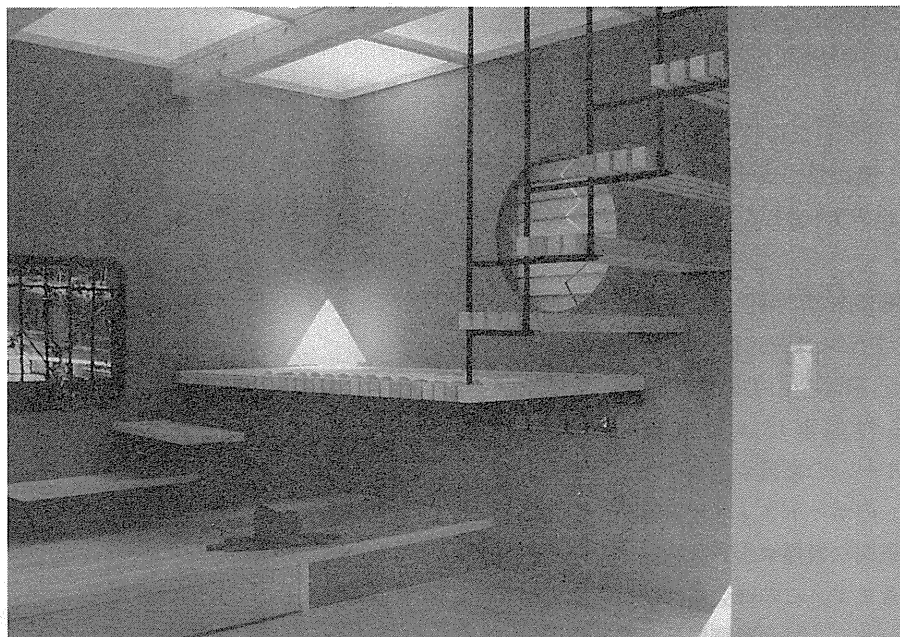
続くパネルディスカッションは、村口峯子教育研究委員長長の司会で進められ、最後には聴講者も参加して、素材や換気の問題について討議が行われ、多くの方々の聴講参加と共に、会員の皆様の活気が感じとられ、有意義な会合だったと思います。

さて、昨今の住宅業界では、高断熱・高气密、長期耐久住宅といったエネルギー効率への対応、バリアーフリー、ユニバーサルデザインといった使う際の安全性への対応、そして、24時間換気システム、健康住宅といった住む人の安全性や快適性が唱えられ、いずれも重要な住まいの条件となっています。しかしながら、これら全てを同時に満足させることは仲々難しく、住む人や住まい方によっては、大きな問題を引き起こすこともあり得ます。

今回のシンポジウムは、こうした住まいの中に潜む環境問題を、建材や住まいづくりの観点から捉え、その対応について様々な角度からディスカッションされたと思います。

いずれにせよ、住まいづくりで最も重要なことは、作り手と住む人が共通認識のもとで家づくりを進めることで、どう住まうのか家族構成の変化に応じて住まい方を工夫したり、リモデルしたりできるできるようにすることだと言われています。作り手側の理由によって、建材や住まいが作られたり、住む人が購入するときの生活スタイルのみで簡単に選んでしまえば、後々様々な問題が生じてくる結果になっても仕方ないのかもしれない。

こうした状況の中で、ショールーム住まいの健康道場「家ッグ」は、住まう人と建築家や建材・設備メーカー・工務店といった家を建てる人をつなぐ場所として、今回講演された建築家の天野 彰先生が代表を務める建築



住まいの健康道場「家ッグ」モデルルーム

家集団「住まいと建築の健康と安全を考える会」によってプロデュースされ、サンスター技研やINAXなど、健康で安全な建材や設備づくりを目指しているメーカーが主体となって、昨年6月にオープンいたしました。

このショールームでは、昨今、話題になっているシックハウス（新築病）や結露・カビといった住まいの悪環境を改善するためのプランニングや新しい建材・設備・工法など幅広い情報を提供していくこととし、例えば、ホルムアルデヒドに代表される室内汚染化学物質の吸着や脱臭効果のある活性炭をボード化し、建材として活用する事例、呼吸する無機質塗料の活用による安全で清潔な内装仕上げ事例、抗菌設備の活用による安全衛生水廻り設計といった新しい建材とプランの提案を行っています。

さらには、ヒーリング設備（癒しの音空間）や人と身体に優しい照明設備など、癒し空間づくりのヒントとアイデアを用意し、家づくりやリニューアルを考えている方々への情報提供を行っています。

この4月から「家ッグ」では、「住まいと建築の健康と安全を考える会」の委員と、建材・設備メーカーの共催による建築家仕事展&建材展、建築家による住まいの相談会、各界の専門家による暮らし方サロンやセミナーも開講する予定です。

今回のシンポジウムに参加されました皆様方や健康で

安全な住まいづくりを進められている会員の皆様方にも見学にお越し頂き、是非とも参画をご検討頂ければと思います。今回はなにかにつけ、ご配慮頂きありがとうございました。

「…四方山」も回を重ねて

関東事業支部交流委員会 立原 俊郎

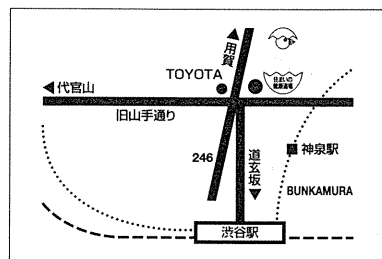
この道を志して半世紀、歴史を彩りながら、飽くことなく前を見つめる先達を迎え、自ら語って頂こうという「デザイン職人四方山話」も、この5月の佐々木達三さんと、6回目を数える。同じ時間・空間を共有しながら、話の中から^{ひととなり}滲み出る、その人間性にも触れられるのも至極嬉しいもの。臨場感といえば大袈裟に聞こえるかも知れぬが、聞き逃すまいと言う緊張感は心地良い。会後に汲み交わす酒もいと旨し。

さて、次回はスバル360「てんとう虫」のデザインでお馴染みの佐々木達三さんにお話を伺う、5月8日が待ちどろしい。皆様もどうぞ期待。

日時／平成10年5月8日(金) 18:00~20:00

場所／中央区京橋・INAXアーキプラザ（賛助会員）

7Fセミナールーム・詳細は別送案内参照



最寄り駅 ●JR、地下鉄銀座線、半蔵門線、東急東横線、京王井の頭線各渋谷駅より徒歩12分
●京王井の頭線神泉駅より徒歩5分

所在地 〒153 東京都目黒区青葉台4-4-5
TEL 03-5790-5121
FAX 03-5790-5122

営業時間 平日 10:00~19:00
土曜 10:00~17:00
祝日 休業

「家ッグ」案内図



作品の説明を受ける参加者

若きデザイナーからのメッセージ

中部事業支部 副支部長 小柳 朝一

インテリアデザインの基礎を学び初めて2年。毎年迎える卒展風景。今年のテーマは？・・・高齢化社会、子供の環境、地域社会、家族のコミュニケーション、ストレス社会、リサイクル商品、自然環境等多彩である。

入学当初の彼らは、デザインは感性、アイデアは思いつくもの等、色々考えていたようであるが、入学してビックリ、思いとは随分かけ離れていたと語っていた人が多い。

この2年間で学んだことを基に、自分たちを取り巻く社会の環境が今後どうあれば良いのか、デザインを通じて何が出来るのか、若者のメッセージから毎年多くのことを教えられる。最近の若者はと言われる中、若きデザイナーの卵たちは、未来社会を見つめ今年も巣立って行く。そんな彼たちには、したたかに生きて行く強さを感じさせるものがある。



展覧会作品批評風景

インテリアデザインの教育に携わって

中部事業支部 総務部会長 宇賀 敏夫

世界インテリアデザイン会議 (IFI '95 NAGOYA) の事務局長の大役を終えた1996年4月より、正式に愛知文教女子短大デザイン美術科の教授としてインテリアコースの教鞭を執っている現在である。

昨年3月よりバブル経済がはじけて、現況の経済界の不況は大変なもので、倒産が相続く中、私たちインテリアデザイナーの仕事も仲々無く、苦戦を強いられている現況であるが、同じように大学も学生数が年々減少してゆき、西暦2005年には現在の大学入学生の約70%と激減するデーターが呈示されている。従って各大学、短大もよほど特色のある学部、学科、コース及び社会的に特典のある有能な教授陣に恵まれないと、産業界と同じように、その学科の存続は不可能となるだろう。

この3年間で、私なりに経験したことだが、入学が入り易いと言うことは、学生の品質の低下にもつながり、産業界と同じように、どんどんコストが下がるに従って、品質の低下を招いている現状と、何ら変わりはないことと言うことが出来る。優秀な学生を世に送り出すことと、素晴らしいグッドデザイン商品を世に送り出すことと同じように、どうも困難な時代到来と言えないだろうか。こんなことを最近考えながら、デザイン活動をしている毎日である。



愛知文教女子短大 インテリアコース2年

小林智美作品 レストラン「グリーン・ハウス」

体験的デザイン教育に想う

事業部会委員 広瀬 文久

近年、環境デザインが重要な時代となってきましたが、21世紀を担う若い人たちへの教育とは、どのようなものかを考えると同時に、昨年度発足した三重県・久居農林高校・環境自然情報コースの先生方にお会いする機会があり、ここに紹介させていただきます。

この高校では、環境問題を語る前に、身近な自然環境を知り、まず、自然を大好きになることが重要だと考えています。そのため、自然と徹底的に付き合うことを試み、学校の近くを流れる雲出川をフィールドに、ゴミ拾いから始まり、植物調査、バードウォッチングなどを行っています。

また、雲出川の最初の一滴を求めての源流部を探検し、その川の終点を見ようとペットボトルでイカダを製作し、海を目指して川下りなども行っています。イカダ作りは、廃品のペットボトルを学生たちが集め、土のう袋に詰め込み、手すりの木枠を付けた耐水合板2枚の下に縛り付け、この約240本のペットボトルで4人が浮かぶことができます。

1年生の田中 翔君がこんな感想を述べています。
「中流はあまり汚くありませんでしたが、下流に行くにつれて、川の中の土が臭くなってきたり、洗剤などの泡が沢山見られるようになってきました。『なぜこんなに汚いんだ』と、ムカムカしたけれど、この川を汚しているのは僕たち人間なんだと思うと悲しくなった。しかしこの川は、まだ完全に死んではないことに気が付いた。なぜなら、川の上流にアマゴ、中流にアユ、ウナギ、下流には、ハゼ、シジミなどの魚がまだ沢山住んでいるから。（中略）、まず、雲出川などの身近な環境を知り、そして一人ひとりが、できるだけゴミを



完成したイカダの前に、自分たちで作ったスイカを食べる「うまい！」

捨てたり、水を汚したりしないことが大切だと思います。」

高校生がこのような環境問題に取り組む姿に感動します。しかも、ここで使用されたイカダは処分せず、手すりに使用した木片は、観察した小鳥のバードカービングに、合板は小鳥の巣に再生して森に設置し、ペットボトルは金属蓋と分別してプラスチックの再生処理工場まで運び、再生のシステムを学びます。

先生方が単に机上の指導で終わることなく、学生に分かり易く環境問題についてを教育しています。このように、教える側の一方通行ではなく、学生が積極的に学び、自らその問題解決の道を発見できることが重要ではないでしょうか。



クラス全員が水に浮く、遙かなる海を目指して…川の流れと共に

「JID賞」大賞「神戸改革派神学校」見学と講演会

関西事業支部支部長 小宮 容一

去る3月20日（金）早朝、窓に吹きつける雨音に目を覚ます。その雨も加藤 力会員と待ち合わせた午前11時には、ほぼ上がる。神戸電鉄田尾寺駅（神戸市北区）前で懇親会々場をセットして、少し離れた神学校へと出向いた。

午後2時過ぎには、参加者53名がチャペルに集まった。まず、神学校校長の牧野吉和先生が「宗教思想と建築空間」と題して講演。プロテスタント・キリスト教が、成立の経緯により、“読む”“聞く”に力点があり“見る”視覚芸術に成果を残さなかった。しかし＜精神＞と＜事物＞との対立的理解はないから、「宗教思想は建築空間としての形態を生みだし、同時に建築空間が宗教思想を刺激し、宗教的感性を育む」を視点として、設計者に条件を提示、学習会を行い、討議に討議を重ねてこの建築空間は完成した。

完成後1年半の建築空間への所見は、「宗教性まで高



宿舍棟吹抜けラウンジを2階より見降す

められた深遠な精神性を持った」「この素朴さ朴訥さが、余分なものを取り去った人間存在の裸のあり方を問うた」「ここに生活する者にとって＜原風景＞となる」「光の美しさ“心”を認識できる」などとした。

続いて、大賞受賞者の竹中工務店設計部長・柏木浩一氏が「建築理念」を講演。建築史を辿ると同時に氏の作品の建築理念の変遷を考察。その変遷理念が“詞”“形”“思想”“感情”の順に移行し、この神学校が“思想”から“感情”の理念に入った精神性の高い建築であるとした。

さらに見学会では、設計課長・酒井利行氏、照明設計家・田村利夫氏にも解説頂きながら、詳細に見学。ご好意のお茶と菓子まで頂く。チャペルに戻って、質疑、感想のやり取りの内に午後6時となり閉会・散会した。

帰路、レストランで有志12名が柏木・酒井両氏を囲み建築談義に花を咲かせ、久々に密度と完成度の高い建築・インテリアに身を置いた充実感のある見学会となった。



講演する「JID賞」大賞受賞者の柏木浩一氏

関西事業支部長への就任と抱負

新・支部長 佐々木 恵子

小宮容一・前支部長の後任として、関西事業支部長の大役を、お引受けいたしました。内外共に、大変厳しい状況の中で、荷が重すぎるのではないかと、戸惑い、不安を抱きながらの出発です。



昨年来、関西事業支部では、JID そのものの存在の意味を問い直して、「何ができるのか」を考える気運が高まっています。これは、運営上の問題に端を発しました。組織の強化と運営の是正に取り組むことは、支部運営委員の急務ですが、一方で、同じ運営委員による事業支部としての活動があります。

組織委員会による“インテリア学生の会”は、会員の協力の上に成り立ち、教育研究委員会の継続テーマ“インテリアデザインをどうとらまえるか”のセミナーも3回を数えました。資金不足に悩みながらの“ECHO”も、広報委員会によって、昨期、10号を発刊、何をおいても継続したい刊行物に育っています。事業委員会も、さらに充実。大阪中小企業振興（株）からの“店づくり振興スクエア”の相談員を受託して、根をおろした感があります。このほかにも、総務委員会が始めたデジタル研究会や、出版委員会の企画“インテリアデザイナーからのメッセージ”などは種が蒔かれて、少しづつ芽が始めています。

今期は、これに中国、四国地方のメンバーも一緒になって、1人でも多くの会員が「やりたいこと」「やれること」を積みかさねて、育て、太らせ、実らせたい、そんな気概に満ちた運営委員会が構成されました。成果は、後から付いてくることを信じて、会員がやりたいことをやれる場の整備と、運営の円滑化を図ります。「個人がJIDの会員として、やりたいことをやる」この基本に立って、協会の足元を固め、成果を出せば、それは社会への働きかけの礎ともなって、JIDのさらなる発展につながるのではないのでしょうか。（注：佐々木・新支部長は、第30回通常総会を経て、正式の就任となります）

活路開拓ビジョン調査事業「報告会」（大阪）

業界側委員長/JID 会員 加藤 力

昨年8月から推進されてきた全国中小企業団体中央会の助成事業「平成9年度／活路開拓ビジョン調査事業」が約半年間の調査研究を終え、その「報告会」が東京、大阪の双方で開催された。この報告会は、ビジョン普及事業として、本調査事業の一環に位置付けられたものであるが、ここでは大阪での報告会について述べる。

大阪では去る2月24日（火）午後6時30分より、ホテルニューオータニ大阪（大阪市・中央区）2F会議室で開催された。報告者は、専門委員として益田文和委員長（オープンハウス代表取締役）、業界側委員から中川千早理事が東京より、これに同じく業界側委員として大阪の加藤 力が出席、報告を行った。

まず、中川委員から事業テーマである「インテリア新素材の流通実態と潜在市場に関する調査研究」の目的、意義、報告書の構成あるいは事業委託経過、活動経過等についての概要報告。次いで、益田委員長よりスライドを用いた「エコデザインについての潮流」として、今後の時代のキーワードでもある「環境」「健康」とデザインとの関わり、取り組み方について講演があった。特に、地球環境にできるだけ負荷のかからないインテリアデザインのあり方について、素材選択、生産過程、流通システム、使用段階、リサイクル等全ての段階を配慮したライフサイクルデザインの重要性が強調された。さらに、加藤委員による調査研究の具体的内容、今後の事業の展開等について説明。この中で、JID 会員のアンケートによるエコロジーに対する意識と実態についての報告があった。

参加者は小宮容一関西事業支部長、夏原晃子、山口道夫理事ら10数名で、オーガニックコットンをはじめとするエコインテリア素材に関して質疑、応答、さらに活発な討議が行われた。JIDにとって初めてのこうした事業を、精力的に推進した中川担当理事らと、参加者各位に対して感謝するものである。

任期を終えるにあたって

九州事業支部支部長 山永 耕平

九州事業支部支部長をお引き受けして早や1期2年が経ち、一応何とか任期を全うすることができました。これも会員皆様のご支援の賜物と感謝しています。

折しもバブル崩壊のまっただ中、新事務局の体制のもとでの不安の船出の上、度重なる責任あるイベント続きに、前途多難が予想されたその予想どおり、重要な役割を担っていた役員が、2名も突然退会するといったハプニングに、息つく暇のない1年をなんとか乗り越えることができました。

2年目は組織の改革のため、前支部長期からの懸案であった役員選挙規定の改訂に取り組み、念願の役員刷新を手掛けることができ、本年度より若返った新執行体制が発足の運びとなりました。しかしながら退会者が相次ぐなど、今後の問題を残す結果となったのは残念なことです。退会された会員には、それぞれ無視することのできない問題を抱えており、組織では解決できない個人的な事情で如何ともしがたいことでありました。また、任期の2年間に社会の状況は激変をとげ、デザイン団体のあり方に新たな問題を投げかけています。

デザイナーとは、こういった変革の時代にこそ、通じる資質と能力を持った個人であるべきと思います。それぞれの個人が、デザイナーとしての資質を持っている以上、会員としてすべてが平等であります。組織のあり方も、縦から横の時代へと大きく変化する時代には、権威主義とか、上意下達の組織は過去のものとするべきでしょう。それは取りも直さず個人が主体となるということであり、JIDの会員個人としての責任のある言動の重さを実感することでもあります。

良く耳にする「なんのメリットもないJID」に期待ができない以上、会員個人がメリットを創り出すという自明の命題を立て直す試みが必要ではないでしょうか。九

州事業支部は、会員同士の交流を中心にして会員の自己研鑽の場としての作品展を通して、大きく発展して来ましたが、今後のさらなる発展を期待して止みません。

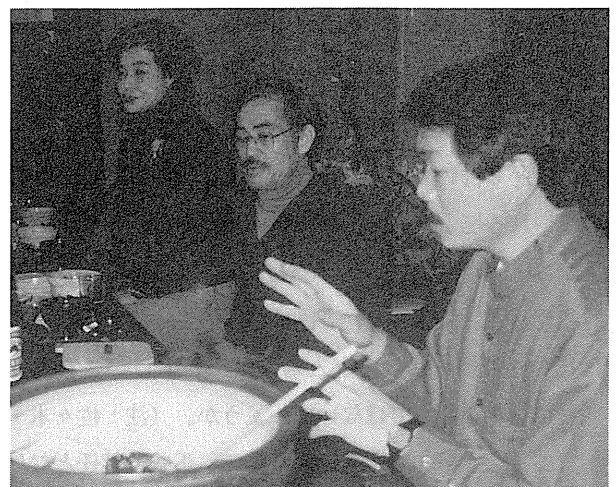
タブーを越えて — 第4回例会にて思うこと —

松岡 伸也

去る1月14日、第4回例会が福井県大川市レストラン「桐蔵」にて開催された。「桐蔵」は私の友人稗田正弘氏が経営するレストラン兼桐製品のショールームで、その独特のスタイルはユニークである。午前中「新春展」を見学し、午後から昼食をとりながらのフリートーキングスタイルで始まった。

「新春展」は、出品メーカー約170社、6000人位のバイヤーが来場する地場の家具産地展としては、日本最大規模を誇っている。しかしながら、大方の感想は個性に乏しく面白みに欠けるというものだった。何故そうなのか。家具に限らず日本の生産品共通の特徴となっている。例会の話の流れは、色々なことへと波及して行っただけ。しかし、今回の目玉は、関東事業支部の間 博信会員のゲスト出席だった。彼の熱意溢れる話振りとは相俟って、プロ意識についての話題は興味を注ぐものだった。

最近プロが現場からいなくなったとか、スペシャリストがいなくなるとかよく耳にする。先日もNHKスペシャルの討論会で誰かが言っていた。「今のサラリーマンはプロ意識が足りない、自分を磨いたり高める勉強をしてい



熱弁をふるう関東事業支部 間 博信会員

ない、だからリストラが恐い、今やそういう時代ではない。」プロとはそのことに詳しいだけでなく、常識を破ることを恐れず、しかも熟知し、タブーを越えた存在である。野球のイチローにしても将棋の羽生氏にしても、また高飛びの背面飛びや水泳のバサラストートにしても常識を越えている。冒険家植村氏は言っている。「私は冒険家ではない。用意周到に準備を進め絶対安全だと思うことをしているだけである。」

プロは自分の個性と独自のスタンスから、知識・理論・技術等を自分なりに形成すべきだと思う。デザイナーも常識的な水準を越え、独自のものを形成し、社会の中



「桐蔵」の商品の前に並ぶ、鐘ヶ江会員自作の絵



第4回例会・レストラン「桐蔵」にて

で役割分担していかなければならない。そんなことを考えさせられ、和やかな雰囲気の中にも熱気のこもったひとときだった。

例 会 に 思 う — 第5回例会 —

木村 洋子

去る3月初旬の土曜日の午後、福岡市の中心街、天神IMSビルで、3時から新年度の総会を前に新旧役員の引継役員会、5時から会員による「例会」が持たれた。私は毎回の例会には特別なことがない限り、公共機関を利用して出かけることにしている。その日も約1時間のボンヤリを楽しむことにした。春3月、風はまだ冷たかったが、JRの座席はポカポカと穏やかな陽射しが差し込んでいた。車窓からの景色を眺めながら、今日は誰に会えるかな?と楽しみになる。

あれは〇年前のやっぱりこの季節、北村新比古会員に誘われてJIDとの縁がつながった。先輩の方々に囲まれて、コチンコチンに緊張していたせいかもしれないが、あの日はとても寒かったのを覚えている。回を重ねるごとに、メンバーの顔と名前が一致してきた。その都度、例会は私にとって新鮮で刺激になることが多く、だんだん参加することが義務的なものから楽しみに変わっていった。

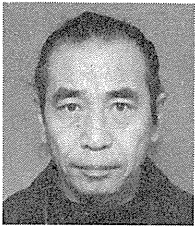
この日は特に、テーマを決めないフリートークという形で持たれ、テーブルを挟んで小さな座が出来、それぞれに活発なおしゃべりが始まった。私のテーブルでも大分県産の日田杉材の有効利用の話から、具体的なアイデアなどがポンポン飛び出した。

コースターの裏をメモ代わりにしたこれらの「デザイン談義」は、環境問題から自然の生態系、果ては人間関係への影響力まで広がって、だんだん熱を帯びてくる。それぞれが自分の席を離れ、いろいろな話題に首をつっこむ。アッという間に予定の時間をオーバーして、お開きとなった。

〔 新 入 会 員 の 紹 介 〕

● 新しく会員になられた方々です。新しい仲間としてよろしく願いいいたします。

● 正会員

会員名及び番号		住 所 及 び 電 話
いま い とも こ 今 井 知 子 会員番号 1155 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	悠 建築工房 東京都目黒区碑文谷6-9-23-201 〒152-0003 TEL / FAX 03-5704-8728 同 上 高石 芳子・森谷 延周
やす だ めぐみ 安 田 恵 会員番号 1156 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株)プロプ 東京都港区南青山6-12-3-204 〒107-0062 TEL 03-3407-3488 FAX 03-3407-3499 東京都港区南青山5-18-10-302 〒107-0062 TEL 03-5469-0654 長堀 映司・下島 資子
さ とう けんいち 佐 藤 健一 会員番号 1157 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	デザインクルー 東京都渋谷区鶯谷町19-18 ファーストマンション七久保101 〒150-0032 TEL 03-3496-5124 FAX 03-3496-5645 神奈川県川崎市中原区小杉陣屋町2-23-21 〒211-0062 TEL 044-722-7212 阪井 良種・吉良ヒロノブ
ふく だ けん さく 福 田 健 策 会員番号 1158 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株)K A I 東京都豊島区南池袋2-27-8 南水ビル6F 〒171-0022 TEL 03-5952-5177 FAX 03-5952-0450 東京都豊島区高田1-11-17 〒171-0033 TEL 03-3981-4069 長岡 貞夫・大野 敬二

● 賛助会員

会員名及び番号		住 所 及 び 電 話
(株)丸光商店 会員番号 3162	住 所 担 当 者 紹 介 者	東京都豊島区駒込2-9-7 〒170-0003 TEL 03-3949-7688 FAX 03-3915-2114 代表取締役 伊達 忠伸 中川 千年

【 複写使用料金の分配金について 】

去る3月4日、(株)日本書籍出版協会ら出版7団体で構成されている「出版社著作権協議会」より、出版物からの「複写使用料」分配金10万円を初めて頂く案内を受けました。

本来、複写使用料は、複写された著作物の著作者に分配されるべきものですが、日常的な大量の複写と、それに関

わる精度の高い実態調査の困難さがあります。

同協議会では、検討の結果、次善の策として、著作者団体または学術団体を適宜抽出して、それらの団体に還元することになったとのことでした。

なお、詳しくは「複写使用料分配規定」および「著作者分使用料分配基準」に基づいて分配されました。

(事務局長／森谷延周)

【 会 員 の 異 動 】

- ご面倒でも、1997～1998版「会員名簿」の該当ページを開けて、ご訂正ください。
- 正会員

会 員 名	異 動 事 項	新
今 井 壽 志 (関東 P58)	事務所開設	(有)フォースアソシエイツ 東京都目黒区中目黒4-2-14 マノブ中目黒205 〒153-0061 TEL 03-5724-5851 FAX 03-5724-5847
岩 倉 榮 利 (関東 P54)	事務所・FAX	岩倉榮利造形開発研究所 FAX 03-5478-0210
宇 治 昌 子 (関東 P54)	自宅移転	神奈川県相模原市淵野辺4-39-7 プレーヌ淵野辺304 〒229-0006 TEL 0427-57-5041
大 隅 照 雄 (関東 P58)	事務所・自宅移転	神奈川県横浜市磯子区森1-5-21-1318 〒235-0023 TEL 045-752-3401 FAX 045-752-3402
太 田 明 子 (関東 P58)	事務所移転	東京都目黒区目黒1-3-16 〒153-0063 TEL 03-3493-0466 FAX 03-3493-9262
岡 部 史 子 (関東 P61)	事務所名称	(有)スパイシーワークス オカベスタジオ
小松原 ひろみ (関東 P75)	勤務先移転	東京都大田区池上5-6-3 〒146-0082 日本ベッド販売(株) TEL / FAX 変更なし
建 部 卓 (関東 P94)	自宅移転	東京都大田区南馬込3-24-11-102 〒143-0025 TEL 03-5709-1298
二 部 誠 司 (関東 P106)	事務所移転	東京都新宿区下落合3-16-11 グランドマン目白702 〒160-0033 TEL / FAX 変更なし
馬 場 敏 (関東 P110)	事務所・自宅移転	東京都目黒区青葉台2-13-5 〒153-0042 TEL 03-3464-8474 FAX 03-3464-8479
日 方 和 城 (関東 P111)	事務所・自宅移転	埼玉県狭山市狭山台3-23 3-6-605 〒356-1304 TEL / FAX 042-956-8441
松 島 由美子 (関東 P118)	事務所移転	東京都目黒区五本木2-33-13 〒153-0053 TEL 03-3760-4893 FAX 03-3760-4894

会 員 名	異 動 事 項	新
山 田 晃 (関東 P129)	事務所・自宅移転	東京都文京区千駄木5-38-18 〒113-0022
木 谷 賢 治 (関西 P160)	自宅移転	大阪府豊中市緑ヶ丘1-14-3 〒584-0026 TEL 06-856-0622
館 野 羊 一 (関西 P165)	勤務先部署	(株)高島屋 大阪事業本部 店外営業推進部 営業企画 ハウジング担当 部長 大阪府大阪市中央区難波5-1-5 〒542-8510 TEL 06-631-2794 FAX 06-631-9986
豊 田 誠 (関西 P167)	自宅移転	広島県廿日市市地御前3丁目19-51-301 〒738-0042 TEL 0829-36-2682
中 川 武 (関西 P167)	事務所開設	ナカガワ テザイン プロダクツ 大阪府大阪市阿倍野区晴明通7-8 〒545-0032 TEL 06-661-9315 FAX 06-661-9316
古 川 友 貫 (関西 P172)	事務所移転	大阪府大阪市西区江戸堀3-1-31 米澤ビル江戸堀9F 〒550-0002 TEL 06-447-2277 FAX 06-447-2266
飯 田 一 博 (九州 P181)	自宅移転	福岡県宗像市吉留3506 〒811-4153 TEL 0940-35-2145

● 賛助会員

会 員 名	異 動 事 項	新
コマニー(株)SD事業部 (賛助 P199)	担当者	事業部長 関谷 義実

● 訂正とお詫び

上野 晴彦会員(名簿P183)の事務所のFAX番号に誤りがありました。

お詫びし訂正させていただきます。 正・FAX 092-935-0946 誤 092-935-0947

● IFI 事務局が移転

International Federation of Interior Architects / Designers

P.O.Box 91640 Auckland Park Johannesburg 2006 South Africa Tel+27 11 8888211 Fax+27 11 8888212

e-mail: ifichris@global.co.za

1998/3～4

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報(1998年通巻201号) 1998年4月27日発行

発行所/社団法人 日本インテリアデザイナー協会

発行人/泉 修二

〒163-1008 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー 8F

TEL 03-5322-6560 FAX 03-5322-6559

企画・編集/JID 本部・事務局 印刷所/有限会社 コーエイ企画